家庭数配付　　かがやけ太陽の子　「　友情　努力　笑顔　」

学校だより　　新潟市立江南小学校　　令和４年５月25日

江南の子

令和４年度
第３号

少数意見と民主主義の本質

校 長　　藤 井　正 人

ある日の６年生の学級会。「思い出係」が計画した学級ミニ運動会について話し合いが行われました。提案された種目は，「リレー」「ドッジボール」「グルグルで走れ」「借り人競走」の４つです。

通常の学級会では，それぞれの種目のやり方や内容について話し合ったり，実際に行う種目を協議し多数決で決めたり，という様子が見られます。しかしながら，この学級会で一番の論点となったのは，なんと「**どうしてもやりたくない種目は，やらなくてもいいか**」という意見だったのです。「リレーは，バトンパスがうまくできないから，やりたくないなあ」「グルグルで走れ…気持ち悪くなりそうだなあ」・・・

そんな個人的な事情や思いが噴出した学級会。学級ミニ運動会を提案した「思い出係」は意気消沈して提案を取り下げた，または切歯扼腕して話し合いが決裂した，という残念なシナリオになっても不思議ではありません。

しかし，この「思い出係」はそんな脆弱なメンバーではなかった。「**理由があれば無理してやらなくてもいいが，みんなで思い出をつくりたいので，できればみんなでやりたい**」という強い願いを訴えました。そして，この学級にはその願いを支える多くのフォロワーがいたのです。

さらに話し合いを続けた結果，この学級会では，次のような共通解を全員で導きました。
「**それぞれの種目を人数制にして，どうしてもやりたくない種目は応援に回ればいい。**」

私は，以上のような学級会の報告を受け，とてもうれしくなりました。なぜなら，上の話し合いの中には民主主義の本質が表れているからです。まず，話し合い参加者が本音を言い合える関係・状況にあること。次に，安易な多数決に走らずに話し合いによる納得解を目指していること。そして，最も大切な民主主義の本質はこれです。

一見我が儘（まま）に思える個人的または少数意見を話し合いの論点に取り上げていること。

とかく“数は力”とする多数決の論理が優先されがちな民主主義。しかし，人類の文化や文明を革新してきたもの・ことは，最初は極めてマイナーでミニマムでした。その典型は「地動説」です。なにしろ，提唱した人々は命懸けでしたから。少数意見に耳を傾ける集団や社会こそが中・長期的には発展し進化することは，歴史が証明しています。

当校は，知育の重点目標を「友達とかかわりながら，自ら進んで学ぶ子ども」として，今年度も**授業等において子ども間の話し合いを重視**します。その際には多数意見や正答を中心に進めるのではなく，少数意見はもちろん，自信のない考えや分からなさを大切にし，むしろそちらを主役にして授業を進めていきます。そして“微弱な声”を増幅する装置をもつ **iPad** を積極的，効果的に活用しながら。